

# 在郷の商人

文化振興課市史編纂担当 松井直樹

市内の西尾藩領には多くの商売をする者や職人がおり、彼らは藩に冥加金を納め商工業を営んでいました。西尾領諸商売世話人が書き上げた天保8（1837）年の「諸商人御冥加調帳」によると、西尾郷を除いた村々で冥加金を納めていた者は89か村の773名で、最も多いのは菓子小売152名、次いで米穀仲買149名でした。

在郷の商人たちは、灰や綿実、古手（中古品）を買い、干鰯・粕の肥料や米穀、酒味噌・酢・溜り、果物、青物煎餅、饅頭、素麺の食料品、荒物、小間物、線香ろうそく、煙草、明かり用油、草履わらじ、下駄、紙、粉の雑貨品、呉服、足袋、糸の衣料品、鍋釜、古道具の道具類、藍玉、藍葉の染色材料を売り、豆腐や酒、焼酎、菓子、糍、味噌、酢などを造っていました。その他、平坂で唐津瀬戸物の陶磁器、新渡場で割木、平坂・一色で白木（材木）が商われ鍛冶屋、籠屋、仕立屋、建具師、八ツ面焼窯元のカメ屋の職人達や市子・平口・斎藤・八ヶ尻・上今川・徳次・寄住に11名の植木職人がいました。平坂湊には、鋳物師の太田定右衛門、木綿問屋の外山徳太郎、廻船問屋の市川彦三郎や新実八右衛門、磯貝利助、大仲買の石川小右衛門の名が見られ、市川は大船三艘、新実は大船一艘を所有していました。

藩は、農業に専念させて生産高を高め貢租の増収を図ろうと、冥加金も倍増するなど商人が増えないように取り締まりましたが、それでも在郷には多くの品物が商われました。この時代、農民の消費生活が広がり、商業活動が拡大したことが想像されます。

# キッズアルバム



前川 守瑚くん  
(吉良町)

平成22年8月生まれ  
いつも元気でニコニコ笑顔♡家族を楽しませてくれてありがとう！



高須 美佑ちゃん  
(羽塚町)

平成22年2月生まれ  
いつも元気いっぱい明るい笑顔。生まれてきてくれてありがとう♡



鈴木 叶琉くん  
(一色町)

平成23年2月生まれ  
お父さんもお母さんも叶琉が大好き♡早く一緒にテニスしたいな♪



尾崎 柁太くん  
(富山町)

平成23年2月生まれ  
好奇心が旺盛で元気な柁太☆のびのび大きく育ってね♪



尾崎 優妃ちゃん  
(東幡豆町)

平成23年1月生まれ  
いつも笑顔の優妃ちゃん。みんなを癒やしてくれてありがとう☆



中村 有くん  
(永吉四丁目)

平成22年2月生まれ  
有くんの笑顔は家族みんなの癒やしです。明るく元気に育ってね。



近藤 穂佳ちゃん  
(徳次町)

平成23年2月生まれ  
おてんばなほのちゃん。みんなを笑顔にしてくれてありがとう♡



小山 大惺くん  
(吉良町)

平成23年2月生まれ  
笑顔のすてきな大くん♪いつまでもその笑顔を忘れないでね♡

